史跡の環境整備に関する事例的研究（Ⅲ）

——多賀城廃寺跡の利用者および周辺居住者の利用実態と意識の調査——

近 藤 公 夫

A Case Study on the Environment Design of the Historical Site
—Research Studies on Visiting Habitions and Feelings by Users and
Surrounding Inhabitants of Old Temple Ruins at Taga-Joh—
By Kimio KONDOH

序 言

多賀城は8世紀に平城京の大和朝廷の命により築かれた東北総鎮守府であつて、現在の宮城県仙台市と松島湾の中間にあり、九州の太宰府といわゆる3大遺跡に数えられる。

この都城は奈良朝前後、蝦夷に対する朝廷勢力の前進基地となり、平安初に坂上田村麻呂が前線を北方に進めてからは東北の中心城市と変り、11世紀の前9年役には源義家の経略に根拠となる等、史上に名を遺した。

また14世紀には建武中興に南朝方の陸奥国府として北富氏が義良親王を奉じ、鎮守將軍の館をここに設け、足利氏の奥羽探題に亡ぼされるまでの城跡でもあつた。

現在、推測される城跡は東西0.9 km南北1.1 kmの土塁に囲まれた平山城跡で、その中に朝堂院形式の宮殿跡が認められ、その東南2 km弱の丘陵には当時の寺跡も見られる。

この寺跡は法隆寺形式に類別されて太宰府の観世音寺と酷似する様式をもち、11世紀頃まで存続したが、現在は昭和41年から昭和44年まで整備をうけ、公園化されている。

いま廃寺の整備後は多賀城跡全域の計画が注目され始めているが、そのためには利用者の問題をふくむ広汎な計画の検討が必要であろう。

この論文は昭和40年の大阪府における百済寺跡の整備とその利用調査を経験し、その後、平城宮跡や藤原京跡に調査を試みた筆者が史跡の環境整備に関する研究の一環として着手した多賀城跡廃寺の利用調査報告である。

調査は昭和45年6月に多賀城跡調査研究所等の協力を得、奈良女子大学学生7名を調査員にし実施したが、その内容は利用実態と史跡意識に関する質問調査と観察調査を主とした。

この調査は規模的な限界からその成果に従来の研究を抜く所は多くないが、現在までの研究成果をここに明らかにして研究充実に資する高判を賜りたい所存である。

この調査は寺跡公園の休日利用者の全数に対して試みられ、その2/3以上に当る161の回答を得た。

調査項目は滞在時間、利用目的、満足度、満足点、改善点についておよび年令、職業、住所、学歴の利用者属性であつて、その結果は表1に示す通りである。

単純集計でその結果を見ると、年令構成は中学以下が2/10強、青年6/10強、壮老年2/10弱であり、職業では定着性の強い農業と無職が2/10強という地方色を見せ、学歴では青年以上の年令階層で義務教育水準がかなり多くて3/10弱、専門学校以上のそれは学生を除き1/10に足りない。(脚註)

つぎに住所を見ると徒歩圏からの利用7/10弱で未成年はその約3割、非徒歩圏の利用は3/10強で未成年はその1割強にすぎず、両圏の利用者日誘致率は1%弱と約1/20%に当る。

(脚註) 調査の対象抽出は青壮年に偏る傾向をもつて、年令構成は上記階層別に3:5:2程度と

利用者調査

奈良女子大学住居学科

考えられる。その結果は全体に遊戯利用が多いのが実態である等の偏向を与えよう。

つぎに利用実態に関してみると、滞在時間では半時間以下が2/10強でその約8割は徒歩圏から、1時間までが5/10弱で徒歩圏のそれは約6割、2時間までが2/10弱で徒歩圏のそれは約6割、それ以上の滞在は1/10強で徒歩圏が8割強を占める。

利用目的では見学が3/10弱で徒歩圏のそれは約3割、休養が7/10弱で徒歩圏のそれは約7割を占める。

利用目的と満足度との関係に注目すると見学目的では3割弱が不満、うち徒歩圏の不満は3割強となり圏外よりやや高く、休養目的では2割弱が不満、徒歩圏のそれは1割弱で圏外のそれより低い。

また満足の理由を見ると見学目的では史跡展示と緑地環境が共に半数ではば等しいが短時間の在苑には前者の理由が多く、休息目的では緑地環境が8割強に達する。
 ◻これに対して不満理由は見学目的では史跡展示が約7割、休息目的では施設不備が7割強、史跡展示が2割弱、緑地環境が1割弱である。

ただし史跡展示に造作がすぎて史跡地の環境が損なわれたとの主張は何れも緑地環境の不全に総括したから、史跡展示を不満の理由とするものは遺構の復元など史跡展示により積極的な姿勢を主張するといえる。

さらに緑地の今後に対する希望に関しては見学目的の場合に文化財展示施設の拡充が7割強、史跡保護が2割弱、緑地管理の充実が1割強となり、休息目的では利用施設の導入5割強、環境の保全管理が3割強、文化施設については2割弱という結果が見られた。

つぎに利用者の属性を基準にして利用実態とその意識との関係を概観する。

居住の分布と在苑時間の関係については徒歩圏からの利用において85%分布域が2時間以下であるのに対し、圏外からの利用は平均が近似する反面で同域が1時間半にとどまる。

居住の分布と年齢層による利用目的の分類は未成年と老年が徒歩圏では休息目的のみであるのに、全数の過半を占める青年と壮年にはそれぞれ2割弱の見学目的が見出され、徒歩圏外のそれでは未成年に約7割の見学目的、青年には約4割、壮年に3割強の同目的が見られる。

またこれを更に学歴により細分すれば徒歩圏青年の例では初等学歴で見学3割強、中高等学歴で約1割、同壮年では初等学歴で見学がなく中高等学歴で3割強、徒歩圏外青年では初等学歴で見学7割弱、中等学歴で3割強、壮年で初等学歴に見学がなく中高等学歴で約4割を数える。

つぎにこれと満足度との関係をみると徒歩圏の未成年は不満足1割弱、青年は見学で同2割強、休息で同1割強、壮年は見学で不満がなく休息で不満足1割強、老年は満足のみである。

また徒歩圏外では未成年の不満足7割弱、青年は見学で同約5割、休息で同約1割、壮年は見学で不満がなく休息で3割強の不満足回答を見せる。

これを学歴と不満理由の関係で整理すると、見学の場合に未成年を含む低学歴層では史跡展示と緑地環境に対する比率が等しく、中等学歴以上を通じては両者のうち史跡展示に関するものが7割強となる。

また休息の場合には低学歴層は利用施設の不備に不満を集中し、中等学歴以上では利用施設が約6割、史跡展示が3割弱、緑地環境が1割強という結果を与える。

終りに希望問題を学歴との関係から見ると初等学歴では文化財展示3割強、史跡保存約2割、利用施設導入5割弱であり、中高等学歴では上記3者が各々約3割、管理の強化が1割弱となり、高学歴層における保全意識の増大という傾向をうかがわせる。

居住者調査

この調査は寺跡公園を中心とする周辺住宅約100戸の住民400人弱を対象に、各戸の訪問面接調査として試みられた。

その内容は全数に対する性年齢、職業、学歴の属性と利用目的、回数の実態ならびに各戸1人の回答者に対し寺跡公園についての評価と理由そして将来の希望に回答を求めたものである。

表2によりその結果を単純集計として見ると実態調査対象の属性は利用実態の調査対象について、男・女子各同数、未成年3/10強、青年3/10弱、壮老年約4/10、職業上は事務職3/10弱、無職3/10弱、学生以下4/10弱でその

他が1/10弱であり、学歴では初等教育水準のものとその他が各同数である。

つぎに史跡公園を中心とする 200 m 圏の内外で比較すると性年令には著差がなく、職業も同様であるが、学歴では初等教育水準のものの比率が圏内でやや大となっている。

まず実態の調査結果では圏内において休息6/10弱、遊戯が約3/10、不明が1/10強であるが、圏外では不明ないし未利用が3/10強、休息約3/10、遊戯3/10弱、見学は1/10を上廻る。特に利用回数を見ると圏内は平均して約10日に1回（休養目的が20日弱に1回、遊戯が約4日に1回）に対し、圏外は平均して30日強に1回（見学は約3月に1回、休養は1月強に1回、遊戯は15日弱に1回）となる。

つぎに属性と目的度を相関させると、圏内のそれは未成年層の遊戯と成年の休息に2分され、休息の利用頻度は青年事務職の10日弱に1回を最大、壮老年無職の30日弱に1回を最小とする。

これに対して圏外のそれは未成年に1/10強の見学と不明、7/10強の遊戯（利用回数15日弱に1回）を見、青年には1/10弱の見学と約4/10の不明と約5/10の休息（利用回数は男子事務職が20日弱に1回、平均約30日に1回）壮老年には1/10強の見学と約5/10の不明と4/10弱の休息（平均約2月に1回の利用）という結果が得られる。

すなわち圏内外で遊戯利用には約4倍、休息利用には2倍前後の頻度差があり、同圏では遊戯と休息の間に2倍ないし4倍の頻度差、休息目的の中では青年事務職と壮老年無職の間に約3倍の差異が見られた。

つぎに意識調査の結果を見ると属性の単純集計は年令構成に未成年の欠ける以外は特に圏内外の比較に関して大差ないが、意識の内容としては利用の実状における頻度の4倍差や目的の変化（圏外の遊戯減や見学増）を反映し、特にその評価では圏内民の肯定的なものに対し、圏外のそれは1/10程度の否定ないし不明という差異を示す。

なお肯定意見における理由をあげると史跡展示の効果に関するもの2/10強、緑地環境に関するもの3/10強、公園利用の開発に関するもの約4/10、郷土の象徴性に関するもの1/10弱で圏内外に大差はなかつた。

他方、この意識から導かれる希望については圏内の場合に施設拡充が約6/10と管理の充実が約4/10、圏外では施設問題約6/10と管理問題3/10程度のほか全城跡の整備をいうものが約1/10を数える。

両者の相異をさらにあげれば、施設に関して圏内住民は展示の整備などの文化面を強調し圏外住民は休息施設の拡充をいい、管理に関して圏内住民は風紀の維持、圏外民は、景美化を強調する傾向にあった。

この意識傾向を居住地分布以外の属性と関連させて検討した結果をつぎにあげる。

利用度数について極端なのは圏内未成年の週2回弱と同壮年男子の2月1回前後、圏外未成年の週1回弱と同壮老年の男子3月1回平均と同女子4月1回平均といった10倍前後の相異である。

これは時間距離と誘致率の対数関係において一次函数の係数を層別にそれぞれ1前後とする普通緑地の例と近似するが、同時につぎの意識問題を結果する。

史跡園地化の評価における肯定・否定に関しては単に不明という意見の増大が圏内外に見られると前述したがその理由については年令別、学歴別によるつぎの相異がある。

圏内の青年層では評価の理由として環境保全によるもの3/10程度で施設開発の7/10弱が優位であるのに、壮老年で史跡展示2/10強、環境保全約3/10、施設開発4/10弱郷土象徴1/10弱である。

ただし壮年女子について見ると未成年の遊園としてこの緑地がもつ機能を重視するため施設開発をいうものが過半数であつた。

これを初等教育と中等教育の別から見ると、青年では判断が困難であるが壮年の場合は史跡・環境・利用・郷土象徴の順に十分比で初等学歴は2:2:5:1、中高等学歴は3:3:3:1を圏内について算する。

また圏外では壮老年にあつて初等学歴では2:3:3:2、中高等学歴で2:3:4:1となつて圏内では低学歴層が公園の開発による利便を特に意識するといえる。

他方、史跡園地化の将来問題について同様の分析を試みた結果はつぎの通りである。

圏内の青年層は施設充実と管理強化の要望が等しく、壮年層はそれが6:4の構成で、特に相異するのは青年の休息施設欲求に対して文化遺跡の展示に対する希望が最大となり休息施設より未成年遊戯施設が重視される点である。

また管理問題としては郷土の象徴であるこの史跡を対外的に強調することが壮年層では特に望まれて過半を占め、風紀の問題がこれにつぐ。

つぎに圏外にあつては青年層において文化・休息・遊戯・修景の順に1:4:3:2を希望の6/10を占める施設整備に見、管理については美化・風紀・弘報・整備拡充の順に2:2:5:1という傾向となる。

また壮年層では施設整備と管理の希望が各々6:4程度で、前者の傾向は青年と同じく1:4:3:2、後者のそれは2:1:4:3と弘報や多賀城全域の整備拡充に関する要望が強い結果となる。

そしてこれを学歴で分析すると壮老年に対象は限られるが、初等学歴者では施設整備の意見が6/10強を占めて

多賀城内城推定平面図

内城整備平面図

比較的高く、その内容は上記の順に0：6：4：0、管理については3：2：4：1と利用施設や弘報への希望は強い。

これに対して中高学歴者では施設と管理の意見傾向に差はなく、その内容は2：3：3：2と文化展示や修景の比重が施設整備に関して多く、管理については1：1：4：4と特に多賀城跡全域の整備が要望されている。

以上の傾向を利用者調査の結果と対比させると、利用実態における利用者の半年1回という徒歩圏に関する結果は全数調査の不全から考えて3箇月に1回程度という

多賀城廃寺伽藍配置図

居住者成年層の回答と合致する。

また目的については同園の休養と見学が約2：8をなすとの結果は居住者の圏内を省いた数値とも合致する。

つぎに満足度における不満例、休養の1/10と見学の3/10は緑地化の評価に関する数値と傾向を異にするが、これは経験から見学における史跡展示の不備や休息における利用施設の不全を示唆するといえよう。

このように考えると、居住者の評価意識と希望意識において利用開発の評価が史跡展示整備の2倍に達しながら、利用開発の希望が史跡公園推進のそれを上廻る事実も無視はできないであろう。

史跡の環境整備に関する諸調査の比較

筆者は前述のように大阪府百済寺史跡公園の整備計画に参加し、同史跡をはじめ奈良県平城宮跡、藤原宮跡およびこの宮城県多賀城跡について利用に関する実態調査と意識調査を個人の自主研究として試みてきた。

ここでは特に学識者を対象として試みた藤原宮跡の調査例をとりあげ、この多賀城における調査結果と比較し史跡環境整備についての方向を考えたい。

藤原宮跡の調査についてはすでに造園学会誌にふれた所であるから説明を反復しないが、特に史跡環境整備の具体的な問題に関してつぎの示唆を与えるものであった。

利用施設の導入については遺物や遺構を展示する文化施設（博物館等）の提案が半数を示し、また環境整備自体のあり方には公園化の提案が過半数で地下への埋没保存が3/10弱、さらに建築遺構の復元というものは2/10弱で

あつた。

これはその後を試みた平城宮跡の利用者調査やその周辺住民の意識調査にも、史跡公園化支持の増大はあるがほぼ合致し、この問題について有識者と一般大衆の間に甚しい意見の差異を見せない。

すなわち、多賀城周辺住民の史跡整備に関する意見は部分的にも視野のせまい所や、史跡空間に利用施設導入を強調する傾向等を持つが、その大勢はこの問題の専門家視される地歴学者等の意向と近似する。

それはこの問題の特殊性と共に、その整備における市民加参の緒を示唆し、また造園人の反省すべきその姿勢を暗示するといえよう。

総括

奈良朝時代における東北総鎮守府であつた多賀城の史跡は現在ようやく積極的な環境整備の機会を迎えつつある。

筆者はこの整備に資する緒を開くと共に史跡の環境整備に資する知見をひろめ、さらに間接的にもせよこの問題に関する住民参加の道を探るため、その利用者と周辺住民の意識調査を既整備の多賀城廃寺緑地で試みた。

その結果は初夏の休日1日の利用者に対する質問調査により1%弱の誘致率を徒歩30分圏について、1/20%の同率を交通1時間帯について得、また利用時間は1時間前後、利用目的は上記の2圏別に見学目的が2/10弱と過半に当り、その3/10弱は不満を「史跡展示が消極的である」との理由から訴える等を知った。

また同日に周辺居住者の意識等を質問調査した結果は、徒歩10分圏の範囲で緑地利用率が1月強に1回(日利用率約3%)、その目的の中で見学というものは1/10に足らず、主として遊戯と休息があげられること、つぎに緑地の整備では利用性と緑地の環境に注目するものが7/10強でこの整備を肯定し、将来の希望としては利用施設の拡充が過半を占めるが、これは学歴の上昇により史跡環境についての評価が増大し、また史跡整備・修景と多賀城全域の整備という希望が著増すること、等の知見を得た。

他方、この調査結果を筆者が藤原宮跡で関西の地歴学者に対して試みた同趣旨の調査と比較すると史跡緑地の整備という方向で合致し、これは他の史跡環境整備に関する調査研究の結果とも近似する。

史跡の環境整備、特にその緑地化、という造園界の新しい課題に対する以上の研究結果は多賀城の整備計画にも示唆する所を持つであろう。

終りに多賀城跡の整備に対する若干の問題点を指摘したい。

そのひとつは同史跡が有する恵まれた自然環境を如何

にその緑化にとりいれるかである。

特に後背の加瀬沼をはじめ変化にとむ丘陵地形は他の史跡に比を見ないので、それは調査に見られた修景希望をも反映するものとし史跡整備に新しい局面を開くであろう。

つぎに城跡とそれを囲む古市の整備という問題がある

現在の理解では城跡は改庁の内域と、その宮舎や工房や軍事施設にみたされ時に数万人の軍勢をいれた外域よりなつて、一般人はその城下に生活したと思われ、ために整備は単に城跡のみに終らずに高崎廃寺の緑地に至る古市全てをふくむことが問題となろう。

さらに局部的な問題として内城等の整備には庁舎跡の表現に新しい手法の導入さるべきことがある。

これは寒冷地の例としてすでに寺跡緑地に見られる舗装の損壊に関する問題と対処するものでもあつて、たとえば内城の正庁前に見られる玉石敷をさらに発展させる考え方などを指摘し得る。

また外城の整備に関しては今も丘陵の4囲に見られる土塁の類を修築して、これをもつて多賀城の旧観を表現する主要な手段と考え、これに地被や群植の植栽あるいは部分的な石垣等をくみあわせて、史跡環境整備に関する新しい手法の検討も提案される所である。

いずれにせよ多賀城跡の整備は今後もなお長期を要する大規模な建設である。その着手に当つてこの小研究は止揚されるべき諸提案のひとつを与え得るであろう。

Summary

The writer had interview researches on visitors and surrounding inhabitants of Historic Park Tagajō Haiji, for the purpose to study the fundamental problems of historic park design.

The results are as below.

- 1) Users pay visits twice a week at most, in the case of primary school age, and about twice a year as a mean of adult inhabitants of Tagajō town : Their purposes are play more than 80%, and study and historic sight-seeing about 10%.
- 2) They are satisfied in 70% to study and in almost 90% to study, and the latter desires to arrange the historic environment and the former desires to set play or rest facilities.
- 3) Surrounding inhabitants appreciate it as recreation place in 40%, as naturalistic green in 30%, as historic park in 20% ; but 1% answers are against this park arrangement.
- 4) On their demands, most one is to make rest and play place in 40%, next is to arrange historical structures and park beautification.
- 5) Above results suggest a direction of park and green construction of historic places, considering with other researches of historical sites as Heijō, Asuka and Kudara-Dera.
- 6) Considering a result of this study, we may insist to arrange whole Taga-Jō Old fortress, with directions to propose to set a green park of 100h. a. on that hill, to create a recreation space and historical surroundings. (45.12.10受付)

表1 多賀城廃寺公園の利用調査結果

住 所			年 令			在 時														合計											
						半 時 未 滿					1 時 未 滿					2 時 未 滿						2 時 以 上									
						目 的		見 学		休 息		見 学		休 息		見 学		休 息				見 学		休 息							
						滿 否	理 由	滿 足 史 展	不 滿 史 展	滿 足 環 境	不 滿 環 境	滿 足 史 展	不 滿 史 展	滿 足 環 境	不 滿 環 境	滿 足 史 展	不 滿 史 展	滿 足 環 境	不 滿 環 境			滿 足 史 展	不 滿 史 展	滿 足 環 境	不 滿 環 境						
希望			文 施	保 全	利 施	保 全	文 施	小 計	文 施	環 境	文 施	管 理	保 全	利 施	保 全	文 施	小 計	文 施	環 境	文 施	保 全	利 施	保 全	文 施	小 計	合計					
步 調	未 成 年	職 業	學 歴			1		1				1	3	1	1	6			1	2			3			1	3	1	5	15	
車 園	青 年	生 徒				2	3	5					1			1												1	1	7	
		学 生					1		1	1			2	3	7			1	1	1	3									11	
		工 業	初 等	2				2	1				1	1		3				1	1		2	1	1					2	9
		事 務	初 等				1		1			1			2																3
		中 高				1		1					1	1	2			1	1		2	1					1		6		
	無 職	初 等				1		1	1			1	1		3															4	
	中 等								1				2																2		
	壯 年	農 業	初 等				1		1																						1
		事 務	初 等				1		1																						1
		中 高	1			1	2				1		1		1		1		1	1							1		5		
無 職	初 等				1	1					1	1	1																2		
老 年	無 職	初 等																								1			1		
車 園	未 成 年							1					1			1		1	1									1	3		
	青 年	学 生							1	1	1		3	1			1		1	1								2	6		
		農 業	初 等	1				1	1				1	2																3	
		事 務	中 等		1			1	1				2	1	4	1				1										6	
		無 職	中 等			1		1				1		1	1				1											3	
	壯 年	事 務	中 高				1	1	1	1		1		3		1		1												5	
		無 職	初 等									1		1			1		1											2	
						1		1			1																		2		

注 在時とは在園時間を言い半時間未満、1時間未満、2時間未満、同以上の4段階に分類する。
利用目的は見学と休息に大別し、満否として各々の満足と不満の別を示し、その理由には史跡展示のあり方と利用施設の状態、および環境の可否をあげ、今後の希望ではそれと対応して史跡などの文化施設・遊具などの利用施設、環境の保全、管理の充実をあげる。
属性については距離1kmの外で徒歩圏と車両交通圏にわけ、年令では15才未満の未成年、30才未満の青年、60才未満の壮年、同以上の老年にわけ、職業は未成年をのぞいて生徒、学生、工業建設業労働者、事務職技能職、農業労働者、無職に大別し、学歴も同じく初等、中等ないし中高等学歴に分類する。

表2 多賀城廃寺公園の周辺居住者調査結果

				実態				評価(理由)				希望																		
				目的	見学	休息	遊戯	不明	肯定		否定	不明	施設		管理		全域整備													
住所	年齢	性別		回数	1	8	4	1	1	未	未	計	史展	環境	開発	管理	不明	計	文化	休息	遊戯	修景	美化	風紀	宣伝		計			
圏内	未成年	男				1		1	2	2		6																		
		女	職業	学歴				1	2	2		5																		
	青年	男	工業事務	初等中等			1				1	3		1					1						1		1			
		女	生徒事務無職	初等中等中等				1				1	2		1	1			2		1				1		2			
						1					2		1	2				3		1	1		1			3				
圏外	壮年	男	農業事務	初等初等中高			1				1	1		1					1	1							1			
							1	1			1	3		3	3				6	3		1		1	1		6			
		女	無職	初等中等			1	1				2		1	3	6	1		11	1	1	3		1	1	4	11			
							1	1	1			1	4		2	2	5	1		10	2	1	3		1	2	10			
	老年	男	無職	初等			1					1																		
		女	無職	初等								1	1		1				1		1						1			
				合計		1	3	10	4	2	4	4	5	3	7	11	15	2		35	7	5	7	1	3	5	7	35		
	圏外	未成年	男			1				3	2	2	1	9																
			女			2				1	2	3	2	2	12				1	1		1						1		
		青年	男	生徒学生工業事務	初等中等								1	2		1				2		1				1		2		
							1					1	5		3	2	3			1	9	2	1	1		4	1	9		
		女	生徒事務無職	初等中等中等								1	2		1	4				5		1	1	1	2			5		
												2	3		1	2	2			5		1	1	1	2			5		
壮年		男	農業事務	初等初等中高		1						1	3		1	1				2		1				1		2		
							1					2	4			1				2		1				1		2		
		女	無職	初等中等		1						1	3		1	2	3	2	1	2	11		3	4		2	1	1	11	
												3	8		2	6	5	1		1	15	1	4	3	2	1	2	15		
老年	男	無職	初等								2	2		1					1		1						1			
	女	無職	中等								1	1																		
			合計	1	7						1	5	5	4	2	4	6	7	12	18	23	4	1	6	65	5	4	11	6	65